

北川隆吉先生を偲んで

柴田 弘 捷

2014年4月7日、北川隆吉先生はご逝去された。

先生のご経歴・ご活躍のほんの一端と私の先生の思い出の一端を記し、追悼の辞とさせていただきます。

先生は1929年、朝鮮京城でお生まれになった。その後、旧制第八高等学校、東京大学文学部社会学科、同大学院社会学専攻に進学され、修士課程2年時に退学、東京大学の助手になられた(1953年10月)。58年に法政大学社会学部に赴任され、学生部長、社会学部長を歴任された。78年名古屋大学文学部教授に転任された。92年、専修大学大学院文学研究科に社会学専攻が設置される時、文学部教授としてお招きし、2002年3月の定年まで本学に在職された。名古屋大学では評議員、専修大学では大学院文学研究科長も務められた。また、日本学術会議会員(3期)、日本社会学会庶務理事(3期)も務められている。

先生は社会調査集団形成のたくいまれな組織者であると同時に優れた調査マン、特にインタビューの名人であった。

先生は院生時代から、社会科学分野の調査史に残る幾つもの調査に参加していましたが、法政、名古屋、専修大学の教員時代を通して、多くの調査集団を組織し、労働者、労働組合、自治体、地域社会の調査を指導するとともに、意欲的に調査をされた。

先生は、「事実につく」ことの大切さを語り、そして「事実に基づかない理論はやめてほしい」とどこかで話しています。その事実をつかむ方法の一つとして、広い意味の社会調査を大事にしていました。

法政大学大学院に社会学専攻が設置されたのは1964年であった。それから先生が名古屋大学に転任するまでの14年間、先生を指導教授とする院生は100人以上いたでしょう。その内、研究職(大学教員、研究機関研究員)に就いた者は20名を超えている。法政の大学院では驚異的な数です。この一事をもっても先生がいかに優秀な教育者であったが判ります。

思い起こせば、私が北川先生を知ったのは法政大学社会学科に入学し、社会学研究会に参加した時(1961年)であった。この研究会は先生の研究室で月に一回程度の割合で読書会をしていた。この研究会の場には若い先生方がチューターとして参加してくれていた。それ以来、50数年にわたってお付き合いをさせていただいてきた。

今思えば、先生の教え方は、「手取り足取り」ではなかった。一種「放ったらかしの教育」だったような気がします。

大学2年の夏、初めて船橋の調査に連れて行っていただいた。そこで、社会調査について何も知らない私たち学生に、「何でも良いから船橋市について判ることを調べてこい」と言われて放り出された。また、4年生の時から3年ほど直江津市(現・上越市)の調査に連れて行っていただいた。これは「地域開発と地域社会の変化」というテーマであったが、ここでも「直江津の地域開発について調べてこい」というだけで、具体的な調査の指示はされなかった。つまり、具体的な課題は自分で見出し、調査の方法も自分で考えろ、という教育方針であったのでしょう。これは調査に限らなかった。この直江津調査の報告書を書いた(書かされた)とき、原稿を提出すると、半分以上に×をつけて、理由も具体的な指示もなく、数回書き直しをさせられた(これが活字になった私の最初の共著論文)。つまり、何がダメなのか自分で考えろ、ということである。その後も同様であった。他の教え子たちに対してもそうでした。

私は、数十年間にわたって、先生と一緒に調査をしたり、本を出したりしましたが、その姿勢は一貫していた。その姿勢の後には学生、教え子への信頼があったのだと思う。

また、先生には、学部生の時から、数人の他の若い先生と一緒によく飲みに来て行っていただいた。飲みながら、私たち学生は、先生方のもろもろの話（小説の話、流行歌の話、社会問題、あれこれの社会学者の話だったりし、それらの話が組織論、リーダーシップ論等につながっていた）を聞きながら、文献からは得られない「社会学」を教えられたような気がします。

先生は、あるところで、若山牧水の「白鳥は悲しからずや海の青空の青にも染まず漂う」を引用し、自分は「どれにも染まってなかった」と述懐し、かつ、漂うではなく「飛び立ちたい」だと言い、また「孤独に耐えられないような老いぼれにはなりたくない」と語っています。自主自律・自立で、人に弱みを見せない人でした。

北川先生は4月7日、「ひっそり」と逝かれた。少なくとも私の知る限り、先生と親しかった者、先生の教えを受けた私たちの誰もが、先生のご逝去をその直後には知らなかった（知らされなかった）。生前の先生のご活躍からは想像もできませんが、最後は「ひとりでひっそりと」というのも先生の生き方であったのだろうと今は思っています。

北川先生、安らかにお休みください。合掌

2014年11月21日 記